

令和元年度

社会福祉法人 湖南市社会福祉協議会

事 業 報 告

= 事業総括 =

本会は、地域福祉を推進する中核的な団体として「第三次地域福祉活動計画」の2年目、「一人ひとりがぬくもりと安心と希望にみちたまちづくりをめざして」の基本理念に基づき、5つの基本目標に沿って、地域住民や諸団体の参加や協力、協働による多様な福祉活動や福祉サービスの推進に積極的に取り組んできました。

総務課では、社会福祉法人に対する厳しい改革（ガバナンスの強化、経営透明性、財務規律、地域での公益的な取り組み等）を実施するため、税理士（会計士）、社会保険労務士と契約し適切な運営に向けてご指導をいただきました。随時、理事会・評議員会、再発防止再生評価委員会、第三者委員会、財源検討部会を開催しました。

役職員研修会では「平成28年度の不祥事について」再度学ぶ機会を設けました。グループワークでは役員と職員が意見交換を行い、今までの取り組みの成果や課題を抽出しました。引き続き組織として職員として再発防止と再生に向けての継続実行を強く認識することができました。

広報活動では、年3回発行の「ふくしの輪」と新たに増刊号を年3回発行しました。社協事業の啓発以外にも「湖南市あっちいきこっちいき」コーナーを設け職員が地域へ取材に行き地域の活動紹介を毎回掲載しました。

地域福祉課においては、各まちづくり協議会に対して社協会費を財源にした「糸づくり交付金事業」を推進しました。基本事業に「見守り事業」、「人材育成・発掘事業」を選択事業に「生活支援事業」、「地域福祉情報発信・啓発事業」、「世代間交流事業」、「小地域福祉活動協力員設置事業」を各まちづくり協議会の実情にあった事業を取り組んでいただきました。

また、令和元年度から各まちづくり協議会設置された地域支えあい推進員に対して研修会や情報交換会を定期的に開催して活動支援を行いました。市内各自治会においては「地域福祉活動奨励金の交付」を20%から50%に変更して地域での福祉活動をより一層取り組んでいただけるように助成しました。

1月には、「災害時におけるボランティア活動等に関する協定書」を湖南市と締結しました。これにより、災害発生時の災害ボランティアセンターが迅速に効率的な設置運営できることを目指して、平常時から訓練や研修を通じて連携強化を図れることができることとなりました。締結にあたっては何よりも市民の有志の積極的な参画が大きな力となりました。

生活福祉課においては、判断能力が不十分な高齢者や障がい者への支援を行うとともに、福祉サービス利用支援の地域福祉権利擁護事業の職員体制を充実させ、契約待機者の解消に努めました。生活困窮者に対して「家計改善支援事業」、「生活福祉資金貸付事業」を実施

しました。

2月には、市民を対象に「子どもの未来について考えるフォーラム」を実施しました。フォーラムでの意見や「湖南市あっちいきこっちいき」での地域への取材を通じて地域や団体への活動助成として「子どもの未来づくり助成金」を創設しました。

3月からは新型コロナウィルス感染症の影響による収入減等でお困りの多くの市民の方へ生活相談や「特例緊急小口資金」、「特例総合支援資金」の貸付申込みに応じました。

ホームヘルプセンターでは、ご利用者様、一人ひとりの個性を尊重し、その方の持つべき能力に応じ、自立した日常生活を送ることができるよう、入浴、排せつ、食事介助等の介護その他生活全般にわたる援助を適切に行うために、ケアマネージャーとの情報共有を大切に、チームワークを持って、サービスを提供しました。

今後も、本会では地域活動の場に積極的に出向き、「顔の見える社協」を目指し、地域のつながりづくりを推進する事業に取り組んで参ります。

1. 法人運営事業 【 88,160,509 円 】

(1) 本部事業

《法人運営事務》

○理事会議の開催

開催日	案 件	
元年5月23日	報告事項	会長・常務理事の職務執行状況報告 第1回評議員選任解任委員会の報告
	議案第1号	理事・監事及び評議員選任規程（案）の一部改正について
	議案第2号	事務局の組織と運営に関する規程（案）の一部改正について
	議案第3号	平成30年度事業報告並びに会計決算書について
	議案第4号	令和元年度定時評議員会の招集及付議案件について
元年6月11日	議案第1号	会長、副会長及び常務理事の選任について
	議案第2号	顧問の委嘱について
	議案第3号	評議員選任・解任委員の選任について
	議案第4号	第三者委員の選任について
元年9月19日	報告事項	会長・常務理事の職務執行状況報告 会長専決事項の報告について
	その他	ホームヘルプセンターの状況について

元年 12月 17 日	報告事項	会長・常務理事の職務執行状況報告 第2回評議員選任解任委員会の報告 会長専決事項の報告
	議案第1号	令和元年度第2回評議員会書面決議及び付議案件について
	協議事項	新年度事業について 第三次地域福祉活動計画上半期進捗状況について 災害時におけるボランティア活動等に関する協定書について
2年 3月 12 日	報告事項	会長・常務理事の職務執行状況報告
	議案第1号	令和2年度事業計画及び予算について
	議案第2号	基金積立金の積立及び取り崩しについて
	議案第3号	第3回定期評議員会の招集及付議案件について

○評議員会の開催

開催日	案 件	
元年 6月 11 日	議案第1号	平成30年度事業報告並びに会計決算書について
	議案第2号	理事及び監事の選任について
元年 12月 26 日 承認日	書面決議	
	議案第1号	理事1名の選任について
2年 3月 25 日	議案第1号	令和2年度事業計画及び予算について

○監査の開催

開催日	おもな内容
元年 5月 20 日	平成30年度事業報告、決算、会務運営の監査について

○評議員選任・解任委員会

開催日	案 件
元年 5月 16 日	評議員5名の選任について
元年 12月 5 日	評議員1名の選任について
元年 12月 24 日	評議員1名の選任について

○再発防止再生評価委員会

委員名	金子秀明、森本信吾、桐高とよみ
開催日	案 件
2年 2月 4 日	・再発防止の対策と現状報告について ・役職員の研修状況について

○再生に向けての役職員研修会

開催日	研修内容
元年 8月 28日	<ul style="list-style-type: none"> ・2年間の研修（6回）の研修の振り返り。 ・グループワーク：社協ができることを市民にアピールするために。 <p>出席者役職員 30名</p>
元年 12月 12日	<ul style="list-style-type: none"> ・28年度不祥事件についての詳細説明 ・グループワーク：詳細を聞いての感想、日常から気をつけていること、今後の取り組みのため <p>出席役職員 35名、欠席役員のレポート提出者 17名</p>

○第三者委員の設置と委員会

委員名	澤九仁男、植村恵子、近藤恵美子
開催日	案 件
元年 2月 6日	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉サービス苦情体制について ・平成30年度福祉サービス苦情状況報告

○財源検討部会

開催日	案 件
2年 2月 20日	<ul style="list-style-type: none"> ・社協会費、共同募金、善意銀行について ・2グループに分かれて意見交換

○社協会費の納入依頼と徴収

7月 世帯社協会費依頼と徴収	(5,513,653 円)	※前年 5,597,915 円
8月 法人・事業所社協会費依頼と徴収	(780,000 円)	※前年 730,000 円
	(計 6,293,653 円)	(計 6,327,915 円)
・高額社協会費（30,000円以上）	納入事業所の広告を本会広報紙に掲載	
対象 7社	(前年 7社)	掲載 5社 (前年 5社)

2. 地域福祉事業 【 10,343,438 円 】

(1) 地域福祉活動事業

《地域福祉活動推進事業》

○第三次地域福祉活動計画の推進と進捗管理

○地域たまり場づくり事業

管理する施設での施設事業と目的に沿ったたまり場事業の実施

ふれあいの館	毎週月曜日午後1時30分より「ふれあいさるん」を開催 (手芸・囲碁などを通して交流)
社会福祉センター	1階ロビーでのコーナーとテレビの設置

○地域福祉支援事業

学区ごとに担当職員を配置し、まちづくり協議会活動等への協力や地域での活動支援を行った。

○地域見守り体制の構築

生活支援サポーター(ボランティア 20 名)による地域での見守り活動を実施し、主に一人暮らし高齢者(利用者 11 名)を対象に見守り活動を行った。

《福祉出前講座》

地域住民や自治会・団体等を対象に、社会福祉協議会の事業、ボランティア、介護などの各担当職員を講師として派遣し、市民の社会福祉協議会や地域福祉への啓発と推進のため、福祉出前講座を行った。

開催回数	6回	参加人数	204名
依頼団体	老人クラブ1回、自治会2回、団体3回		
依頼内容			
① ヘルパーによる寸劇(認知症) ② 介護予防・健康づくり・認知症予防・脳リハビリ体操 ③ 介護保険制度について ④ 地域福祉権利擁護と成年後見制度について ⑤ 災害ボランティア講座、HUG(避難所運営ゲーム)			

(2) ボランティアセンター活動事業

《ボランティア活動に関する情報の収集および提供》

情報提供

- ・社協広報「ふくしの輪」のボランティアセンターだより
- ・市広報にてボランティア講座、シルバー教室などの参加者募集及びボランティアまつりお知らせなどを掲載

《ボランティア活動に対する相談、助言と調整》

- ・ボランティア依頼(一般依頼: 387 回)
(定期的依頼: 年間)

市内福祉施設、高齢者サロン、幼稚園、保育園、小中高等学校、子育てサロン、学童保育、まちづくりセンター、国際協会など 38 施設(延べ 588 回)

《ボランティア講座の開催などによるボランティアの育成》

- 生活支援サポーター講座(全 4 回) 参加者延 33 名
- 災害ボランティア養成講座(全 4 回) 参加者延 189 名
- ボランティアきっかけづくり講座(全 2 回) 参加者 25 名
- 障がい児支援ボランティア・スタッフ養成講座(全 3 回) 参加者 25 名
～終了後、ホリデースクール事業参加～
- レイカディア大学ボランティア体験説明会 参加者 4 名

○市内小中高校の体験学習

三雲小学校	3年生 74名	手話・点字・視覚障がい者のお話
三雲東小学校	5年生 56名	車イス・アイマスク・手話・点字体験
菩提寺小学校	3年生 79名	車イス・アイマスク・手話・点字体験
菩提寺北小学校	3年生 47名	アイマスク・視覚障がい者のお話
石部南小学校	3年生 46名	点字・アイマスク
岩根小学校	3年生 39名	手話・アイマスク・点字体験

○中高生ボランティア体験 (全3回) 参加者 17名

【車イス体験、アイマスク体験、「すずめの学校」夏祭り体験】

《ボランティア活動の組織化や交流の促進》

○ボランティアまつり 令和元年11月2日(土)

V連の主催事業ではあるが協賛し、広くボランティア活動の理解を深め、ボランティアとの交流、ボランティア同士の交流を図ることができた。年1回開催。2,000名を超える来場者があった。

《当日参加ボランティア》約70グループ 400名 (前年度約400名)

《一般体験コーナー終了者数》169名

《景品引き換え》475名

《ボランティア活動基盤整備》

○ボランティア保険の加入

・ボランティア活動保険加入 803名 (前年度810名)

○ボランティアグループへの活動助成

・64団体に助成 (前年度70団体)

○ハッピータイム (奇数月第2火曜日午後1時30分~)

・グループ間の交流・ボランティアグループ活動披露

5月	亀の子クラブ・ブルースカイ 20名参加	7月	徳波会 45名参加
9月	銀の笛 40名参加	1月	ハーモニー 20参加

○こどもクラブ

就園児・小学生親子とボランティアとの交流を目的として開催

不定期(春・夏・冬休み・土曜日など)

全9回 参加者 延べ242名

約26名/回 参加

《その他》

○備品貸し出し…車椅子、かるた、カロム、プロジェクターなど

○高齢者見守り活動事業

生活支援サポーターによる見守り活動事業の実施…年間183回(前年192回)

○ゴーヤカーテンプロジェクト

ボランティアと市 29 か所（保育 6 か所、幼稚園 5 か所、こども園 1 か所、小学校 2 か所、児童施設 2 か所（市外 1 か所含む）、高齢者施設 9 か所、公共施設 4 か所）にゴーヤのカーテンの普及を推進するため、種まき、苗作り、棚にする竹の切り出し、棚作り、花壇作り、追肥などをした。

○配食サービス事業

ひとり暮らしの高齢者に対し、ボランティアの協力のもとに手作りの昼食を配達し、見守りも兼ねて行った

年間 20 回開催 延べ 1,031 個配食 <昨年計 1,061 個>

3 月は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止、中止連絡をし、集金を担当する社協職員で利用者全員の安否確認をした。また、ボランティアグループ制作の布マスクと使い捨てマスク 3 枚を配布した。

約 52 個／回 配食

なお、給食サービスで安否確認できなかった一人暮らし高齢者に対して担当民生委員へ連絡して安否確認を依頼した。

○災害ボランティアセンター設置・運営のための活動

- ・災害ボランティアセンター設置・運営訓練 9 月 21 日 参加者 76 名
- ・災害ボランティアセンター運営隊の育成（登録者 50 名）
- ・災害ボランティアセンター設置・運営マニュアルの改訂

○リサイクルコーナー・手作り品販売コーナーの設置

- ・古着を 1 着 100 円で、手芸ボランティアの作品を希望される方に購入いただいた。

○行事などへのボランティア参加協力

- ・障がい児ホリデースクール事業 ボランティア数 延 261 名（前年度 207 名）

(3) 広報活動事業

《広報発行事業》

○広報の発行

- ・令和元年 5 月発行（通刊 38 号 新聞折込）
- ・令和元年 7 月発行（増刊⑦月号 組回覧）
- ・令和元年 10 月発行（通刊 39 号 新聞折込）
- ・令和元年 11 月発行（増刊⑪月号 全戸配布）
- ・令和 2 年 1 月発行（増刊①月号 全戸配布）
- ・令和 2 年 3 月発行（通刊 40 号 新聞折込）
- ・ホームページの更新（随時）

○広報紙の配布先

市内

市役所、図書館、まちづくりセンター、公共施設、コンビニエンスストア、金融機関、大型小売店舗、ドラッグストア、病院など

県内社協へ広報を配布した。

(4) 助成事業

《地区活動助成事業》

地域福祉活動奨励金の交付

各区の前年度（平成 30 年度：5,597,915 円）の社協会費額の 50%を地域福祉活動のために助成した。また、前年度までは交付率を 20%としていたものを 50%に引き上げた。

助成額合計 2,799,400 円 <前年度 1,184,200 円>

《福祉団体活動助成事業》

市内の福祉関係団体に対し活動費を助成した。（10 団体）

(5) 生活困窮者支援事業

○「子どもの未来について考えるフォーラム」

子どもたちが家庭の経済力に影響されることなく教育を受け、社会の中で自立していくように、私たちに何ができるのか、何をしていくべきなのかを考えるフォーラムを開催した。

実施場所 共同福祉施設（サンライフ甲西）

開催日 令和 2 年 2 月 22 日（土）

内 容 講演「子どもの笑顔とまちのにぎわい」

社会福祉法人滋賀県社会福祉協議会事務局長 谷口郁美 氏

事例報告

・「にぎわい広場」子ども食堂の取り組み

石部南学区まちづくり協議会 会長 山元照代 氏

・「今、子どもたちに起きていること」

湖南市家庭児童相談室 室長 藪内美輝子 氏

来場者 74 名

共 催 湖南市（住民生活相談室）

3. 生活福祉事業 【 4,645,030 円 】

(1) 生活福祉貸付事業

《生活福祉資金貸付事業》

生活に困窮した方（世帯）からの経済的な悩みの相談を受け、必要に応じ貸付制度の利用手続きを進めたほか、善意銀行事業による生活食糧品支援や、生活保護の対象と考えられる世帯を行政へ繋ぐなど関係機関との連携を行った。

○生活保護受給予定世帯を対象としての貸付（市）

種 類	件 数	貸 付
生活保護予定世帯繫ぎ小口資金	9	（昨年 8 ）

○生活緊急一時としての貸付（県）

件 数 種 類	相 談	貸 付
緊急小口資金	62 (昨年 92)	7 (昨年 4)

○失業による生活貸付（県）

件 数 種 類	相 談	貸 付
総合支援資金	2 (昨年 6)	0 (昨年 0)

○福祉による目的に応じた貸付（県）

件 数 種 類	相 談	貸 付
福祉資金	36 (昨年 59)	3 (昨年 9)
教育支援	24 (昨年 23)	8 (昨年 3)

(2) 地域福祉権利擁護事業

判断の困難な方を対象に、日常の金銭管理や大切な物の保管など生活支援を行った。

- ・契約件数：66 件 <昨年 65 件>

内訳：認知症高齢者等 11 件 知的障がい者等 33 件
精神障がい者等 18 件 その他 4 件

- ・年度内新規契約：9 件（認知 3、知的 5、精神 0、その他 1）

解約：8 件（認知 2、知的 3、精神 3、その他 0）

問い合わせ、相談援助件数	認知	知的	精神	その他	計
問い合わせ	0	2	3	5	10
問い合わせ初回相談	4	7	2	3	16
相談援助	711	1, 580	1, 583	201	4, 075
計	715	1, 589	1, 588	209	4, 101
<昨年度計>	(857)	(1, 652)	(1, 613)	(99)	(4, 221)

○市民向け権利擁護セミナー

令和2年2月29日にNPO法人甲賀・湖南成年後見センターぱんじーと市民を対象にセミナーを開催予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大のため中止となった。

(3) 介護予防・日常生活支援総合事業 通所型サービス

《いきいきサロンなごみ》

要支援者と二次予防事業対象者の高齢者に趣味等の生きがい活動の機会と場を提供することを目的に実施した。

実施場所 石部軽運動場（石部老人福祉センター併設）

開設日 毎週火・水曜日

登録者 18名 <昨年 16名>
年間 98回開催 延べ 771名参加 <昨年 延べ 727名>
平均 約 7.9名／回、 約 64名／月 参加
利用者の送迎 771名／年

4. 受託事業 【 11,252,852 円 】

(1) 障がい児ホリデースクール事業

学校の長期休暇期間中に障がい児を対象に地域やボランティアの方々とふれあいながら健やかな一日を過ごせるよう、ホリデースクールを開催した。

① 夏季休暇中の18日間（7月22日から8月26日）

参加児童生徒 延べ 222名 <昨年 232名>

スタッフ 延べ 160名 <昨年 166名>

ボランティア 延べ 233名 <昨年 179名>

② 冬季休暇中の2日間

12月24・25日の2日間

「クリスマス会」 社会福祉センター

参加児童生徒 延べ 25名 <昨年 25名>

スタッフ 延べ 20名 <昨年 19名>

ボランティア 延べ 28名 <昨年 18名>

③ 春季休暇中の2日間

3月26・27日の2日間

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止とした。

(2) 高齢者生きがいサロン事業

《みくもいきいきサロン》

65歳以上の方を対象に健康維持、自立支援の助長、介護予防仲間づくりを目的に実施した。

実施場所 三雲地域人権福祉交流センター（三雲ふれあいセンター）

開設日 毎月第1、第3金曜日

登録者 20名
年間 20回開催 延べ 257名参加 <昨年 延べ 251名>

平均 約 13 名／回 参加

(3) 生活困窮者自立支援事業 家計改善支援事業

市住民相談室(自立相談窓口)等の各専門機関と連携し、生活困窮世帯を対象に家計管理を中心とした家計改善支援を行った。生活福祉資金貸付とも必要に応じて連携をとった。

利用世帯数	7 世帯／年 昨年 (11)
相談件数	6 件／年〃 (4)
支援件数	74 件／年〃 (109)

(4) 生活支援体制整備事業（第1層地域支えあい推進員の設置）

○今年度より、各まち協（まちづくりセンターごと）に第2層地域支えあい推進員が設置された。新任推進員研修の実施から、情報提供や共有する場の開催、地域に出向き、住民同士のつながりづくりや地域課題を共有し協議する場（地域支えあい推進会議）に参加したり助言を行い、支えあい活動やまちづくりの展開への支援ができた。

- ・地域での課題解決に向けた取り組みへの参加
- ・地域課題を、住民や関係者が話し合う場（地域支えあい推進会議）への支援
- ・住民同士の支えあい・助けあい活動への協力、情報提供
- ・研修会や先進地視察についての情報提供や連絡調整の実施

5. 居宅介護事業 【 62,936,403 円 】

(1) 訪問介護事業（ホームヘルプサービス）

《訪問介護事業》

介護保険事業として、高齢者の方々を中心に、身体介護や生活援助の訪問介護サービスを提供した。

介護保険訪問	介護予防日常生活支援総合事業
利用者 延べ 861 名／年 ＜昨年 794 名／年＞	利用者 延べ 175 名／年 ＜昨年約 170 名／年＞
約 71 名／月 <昨年 66 名／月>	約 19 名／月 <昨年 14 名／月>
訪問回数 延べ 13,321 回 ＜昨年 11,931 回／年＞	訪問回数 延べ 1,097 回 ＜昨年 995 回／年＞
約 1,110 回／月 ＜昨年 994 回／月＞	約 91 回／月 ＜昨年 82 回／月＞

(2) 障がい者総合支援事業

障がい者総合支援制度に基づき、本会では居宅介護事業（身体障がい者ホームヘルプサービス・同行援護サービス）を実施し、利用対象者にサービスを提供した。

ホームヘルプサービス	同行援護サービス
利用者 延べ 399名／年 ＜昨年 299名／年＞	利用者 延べ 74名／年 ＜昨年約 73名／年＞
約 28人／月 <昨年 24人／月>	約 6人／月 <昨年 6人／月>
訪問回数 延べ 2,358回 ＜昨年 2,351回／年＞	訪問回数 延べ 277回 ＜昨年 275回／年＞
約 196回／月 ＜昨年 196回／月>	約 23回／月 ＜昨年 22回／月>

《湖南市障がい者等移動支援事業》

屋外での移動が困難な視覚障がい者（グループ）に対して、外出のための支援サービスを提供した。

介護なし	介護あり
2対1 利用者 延べ 20名／年 ＜昨年延べ 44名／年> 約 2名／月 訪問回数 延べ 26回 ＜昨年延べ 40回／年> 約 2回／月	2対1 利用者 延べ 2名／年 ＜昨年延べ 14名／年> 約 0.1名／月 訪問回数 延べ 1回 ＜昨年延べ 4回／年> 約 0.1回／月

(3) 特定相談支援事業

障がいのある人が自立した日常生活又は社会生活を営むことができるように、障がい者福祉サービス等の利用計画の作成等を行った。

利用者 延べ 35名／年 約3人／月 <昨年延べ 53名／年>

(4) 子育てホームヘルプサービス事業

《多胎児家庭ホームヘルプサービス事業》

多胎児を持つ世帯に対し、家事や育児などの生活支援ホームヘルプサービスを市受託事業として実施した。

延べ 12名、81回／年 <昨年計 29名、81回／年>
約 1名／月、7回／月 <昨年計 2名、7回／月>

《子育て支援ヘルプ事業》

生後3歳までの乳幼児のいる世帯に対し、家事や通院、育児など様々な活動の支援を市受託事業として実施した。

延べ 12名、40回／年 <昨年計 13名、40回／年>

約 1 名／月、 3 回／月 < 昨年計 1 名、 3 回／月 >

(5) 特定旅客自動車運送（福祉有償）事業

特定旅客自動車運送事業者（道路運送法 43 条及び 78 条を取得）として介護保険事業及び障がい者総合支援事業の契約者を対象に、通院や買い物など契約サービスと一体的に移送サービスを実施した。

延べ 147 名、 225 回／年 < 昨年計 242 名、 424 回／年 >
--

約 12 名／月、 18 回／月 < 昨年計 20 名／月、 35 回／月 >

6. 施設管理事業 【 16,305,100 円 】

(1) 社会福祉センター管理事業（指定管理）

市（社会福祉課）から指定管理（平成 30 年度～令和 2 年度）を受託し、貸館業務、施設管理業務、また施設事業として関連情報の提供やたまり場事業等を行った。

= 貸館状況 =

年間延べ 1,057 件 < 昨年 1,213 件 >

平均 約 92 件／月 利用

(2) 石部老人福祉センター管理事業（指定管理）

市（高齢福祉課）から指定管理（平成 30 年度～令和 4 年度）を受託し、専従の管理人を配置して貸館業務、施設管理業務、また施設事業として高齢者を対象に風呂の利用、サロンの開催、健康推進事業などを行った。

= 貸館状況 =

年間延べ 739 件 < 昨年 延べ 752 件 >

平均 約 62 件／月 利用

= “和の湯” 利用状況（利用料 1 回 100 円）=

年間延べ 1,170 名 < 昨年 延べ 1,273 名 >

平均 約 98 名／月 利用

= 軽運動場管理事業 =

年間延べ 620 件 < 昨年 延べ 776 件 >

平均 約 52 件／月 利用

○ ふれあいサロン「みんなのまめ講」の開催

石部老人福祉センターを拠点に介護予防、仲間づくりためのサロンをボランティアの協力をいただきながら開催した。

実施場所 石部老人福祉センター

開設日 4 月より毎月第 2 金曜日

年間 11 回開催

3 月 13 日は、新型コロナウイルス集団感染予防の為、中止した。

延べ 495 名参加 < 昨年延べ 478 名 > 平均約 45 名／回参加
--

○老人福祉センターまつりの開催

老人福祉センターならびに軽運動場の利用促進と利用者同士の交流を図るため、施設利用者（グループ）によるステージ発表や作品展示、また体験コーナー、模擬店を設置した。

実施場所 石部老人福祉センター、石部軽運動場

開催日 令和元年 5月 25 日（土）

来場者 約 400 名

協力団体 39 団体

○老人福祉センター「将棋大会」の開催

将棋を通して、思考力・集中力・決断力など技能の向上に加え、人との交流を深めながら愛好者の増加をめざし開催した。

実施場所 石部老人福祉センター

開催日 令和元年 11月 21 日（木） 対局参加者 16 名

○シニア応援講座の開催

高齢者が自ら学び、生きがい探しや仲間づくりなど、世代交流をしながら地域づくりに楽しく参加できる「シニア応援講座」を開催した。

① 湖南市の歴史講座

（令和元年 6月 18 日～5回シリーズ・生涯学習課共催）

延べ 101 人参加 平均 20 名/回

② 染め物体験教室 令和元年 10 月 4 日～6回シリーズ

延べ 161 人参加 平均 27 人/回

③ かわいいクッキーづくり

令和元年 12 月 12 日（木） 参加者 14 名

（3）ふれあいの館管理事業（指定管理）

市（社会福祉課）から指定管理（平成 30 年度～令和 4 年度）を受託し、専従の管理人を配置して施設の貸館を含めた管理業務を中心とし、施設の事業として位置づけられたボランティア活動として次のような事業を行った。

《施設管理事業》

年間延べ 624 件 <昨年 延べ 622 件>

約 52 件／月 利用

《たまり場事業》

毎週月曜日午後 1 時 30 分より「ふれあいさろん」を開催

（手芸・囲碁などを通じて交流）

《その他》

○備品貸し出し 囲碁ゲームセット・本・遊具など

7. 善意銀行事業 【 766,636 円 】

市内外から善意による金品の寄付を受け、寄付金の一部については地区活動助成事業やボランティアセンター活動事業に役立て、また米や物品などは生活困窮者や施設への提供あるいは本会やボランティア活動に提供するなど、多方面へ役立てた。

寄付総額 1,892,354 円 < 昨年 1,148,835 円 >
寄付物品 米、車いす、タオル等

《催し物器具の貸出事業》

地域での行事やイベントに必要な催し物器具を次のとおり貸し出した。

・貸出件数 合計 82 件 < 昨年 89 件 >

	かき氷機	綿菓子器	ポップコーン機	たこやき器	鉄板
元年度	20 件	34 件	21 件	0 件	7 件
<昨年度>	(29 件)	(31 件)	(23 件)	(0 件)	(6 件)

《福祉機器貸出事業》

車椅子の貸し出し 貸出回数 42 回（令和 2 年 3 月末現在）< 昨年 61 回 >

《福祉自動販売機設置事業》

社会福祉センター、老人福祉センターに自動販売機を設置し、設置手数料を福祉事業への財源確保に努めた。